

札幌市立
手稲西中学校
学校だより
第9号



令和2(2020)年
3月25日
発行

修了式のお話

校長 丹羽 俊

今から約2週間前の3月13日、本校の65回目の卒業証書授与式が、この体育館で行われました。予定では、いつも通りたくさんの保護者の方々や来賓のお客様をお招きし、そして在校生である皆さんが見守る中、厳粛で盛大な式典が行われるはずでした。1・2年生のみなさんも知っていると思いますが、2週間前の卒業式は在校生である皆さんはもちろん、来賓の方や保護者も出席できませんでした。歌もありません。いつもの半分にも満たない、30分足らずの式でした。

当たり前のことが、当たり前ではなくなったときに、人はたくさんの事を学びます。今回の卒業式もまさにそうです。保護者がいない卒業式、在校生もいない、合唱もない。いつもはそこにあったものが何一つない卒業式。まさに当たり前が当たり前でなくなった瞬間でした。皆さんもこの話を聞いていて、本当に何もない卒業式だったんだと思うのではないのでしょうか。ところが、今年の卒業式には逆に、いつもの卒業式には無かったものがあったように感じました。それは目には見えないたくさんの人の思いや願いです。こんな卒業式になってしまったから、何かできることはないだろうかという多くの人たちの思いや願いに触れることができました。そして、皆さんの先輩たちは、その思いや願いをしっかりと受け止めて前を向き立派に卒業していきました。

今日は、1・2年生のみなさんの一年を締めくくる修了式です。皆さんの節目の日ではありますが、当たり前でできなかった卒業式から大切なことを学び、立派に卒業していった3年生のことを、1・2年生の皆さんに伝えなければならないと、私は強く感じました。

皆さんにとっては、明日からまた、2週間ほどの春休みが始まります。これまで経験したことがないほど長期間に及んだ臨時休校や、分散登校、机の間隔を空けての給食など、当たり前ではないことがずいぶんありました。これから4月の始業式までも、まだまだ何が起こるかわかりません。こんな時だからこそ、当たり前ではない状況から何かを学ぶ機会にしてほしいと思います。そして、あらためて当たり前がどれほど大切で大変なことなのかを理解してほしいと思います。4月6日の始業式には、またこうして皆さんと笑顔を交わし、再開できることを楽しみにしています。

転出・退職する教職員からの
メッセージ

□□ 木下 雅裕 教頭先生 □□

この学校では教頭として4年間勤務させていただきました。授業を通して生徒の皆さんと接することは、立場上、ありませんでしたが、それでも小規模校であるがゆえ、ほぼ全員に朝の挨拶や様々な場面でかかわることができて、とても楽しく過ごすことができました。また、保護者の皆様や地域の方々に支えられているなあと、本当に肌で感じる4年間でした。ここで退職を迎えられた事を幸せに思います。感謝しております。

□□ 川崎 博道 さん(用務員) □□

5年間勤務させていただきました。手稲西中学校の生徒の皆さんから、いつも元気なあいさつをもらいながらパワーにかえて勤務することができ感謝しています。保護者・地域の皆様から多くのご協力をしていただきありがとうございました。

□□ 上西 慈子 さん(学校図書館司書) □□

小学校に入学した時から図書ボランティアとして、今年度は中学校の教職員として、みなさんのことを見てきました。こんな近くで成長していく場面に長く関わることができて幸せです。生徒のみなさん、教職員のみなさん、1年間本当にありがとうございました。私は、この学校とこの地域が大好きです。

□□ 反田 龍多 先生(スクールカウンセラー) □□

5年間、お世話になりました

最後に、緊張したとき、リラックスのしかた
・「1-2-3」と数えながら鼻から息を吸い、「1-2-3-4-5」と数えながら息を吐きます
・5数えながら握りこぶしに力をいれこめ、5キープ。1でズッと力をぬいて10数える
胸を張って、肩甲骨をくっつけるイメージで5数えながら背中側に肩を寄せ、5キープ
5数えながら、ゆっくり力をぬきます

ありがとうございました

